

### 3. 乳質とミルクーに関する調査について

曹印乳業中湧別工場

米 田 重 雄

乳牛の多頭飼育に伴い省力経営のためにミルクーを導入する酪農家が急速に増加しているが、その取扱不良により、爐床型式は潜往性の乳房炎が多発し、同時に雑菌や塵埃の混入によつて牛乳の品質を低下させている事は衆知の通りである。我々はミルクーと乳質及乳房の異常について若干抽出調査を行つたのでその結果を報告したい。

#### 調査方法

1. ミルクーの導入状況と洗剤の使用状況について39年5月、40年2月の2回に亘つてアンケート方式によつて行つた。
2. 乳質検査はレサズリン・セジメント、PLテストの3方法で工場受入時に行い、道庁検標準に基きA、B、C、D、Eに格付、PLテストは(-)(±)(+)(++)に分類した。その結果別表の如くセジメントに於て夏は手探りが良く、冬にはミルクーが良い傾向を示している。レサズリンに於ては稍々年向を通じて手探りが良くなつてゐる。
3. PLテストでは39年5月には手探り、(-)56%、(+)(±)38%、ミルクー(-)48%、(+)(±)48%となつてゐるが、40年2月の調査では、手探りの(-)53%、(+)(±)29.5%、ミルクーでは(-)45.5%、(+)(±)23%と低下している。
4. CMT陽性分房は42.8%で4分房共健全と見られるものは20%であつた。
5. アルコールテストでは陽性分房12.6%で4分房共健全と見られるものは76.6%であつた。
6. ブリードでは50万以上の分房が22.7%、全分房が50万以

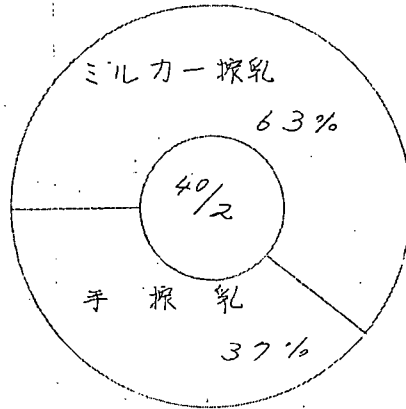
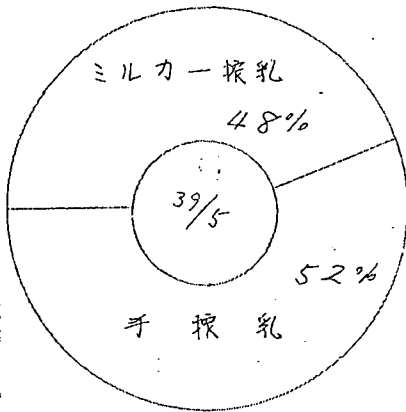
下のものは40%であつた。以上の検査方法により健全と考えら  
れるものは20%に過ぎずほとんどの牛は乳房に異常があるもの  
と考えられる。

ク、採乳器具の洗滌、殺菌の状況は塩素剤の使用が92.5%に達し  
ているのに比して酪農洗剤は56.5%で未使用農家が多く塩素剤  
適量の傾向が見受けられる。又年向出荷乳量別に見ると、30~  
40t級と10t以下の級がセシメント、シサスリン共に稍々良  
く、20~30t級を前年比の高い級は労力不足のためか乳質は  
良くない。

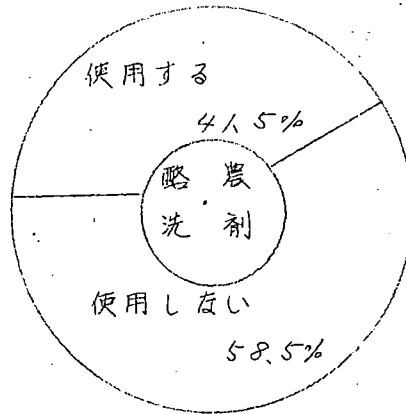
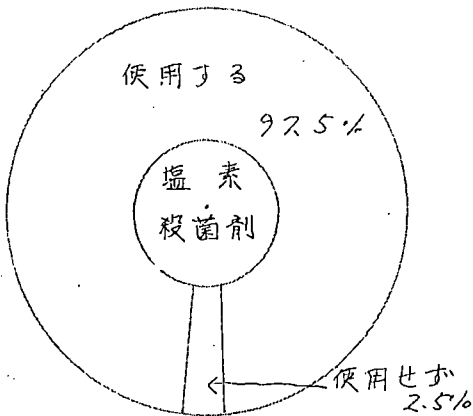
### 考 察

省力経営の目的でミルクカーを導入する事は生産性向上のため  
に必要であるが、その取扱に於てミルクカーの機械的刺戟のため乳房  
炎を惹起し加へて洗滌、殺菌の失宜、就中ライナーの脱着式は採  
乳場の衛生環境不良等によつて衛生的である可き牛乳を逆に品質  
低下を招いている。今後の乳質改善指導上、ミルクカーの取扱、殺菌  
洗滌、塩素剤一辺倒の是正、ミルクカー取扱業者を含めた取扱技術  
の指導等を重点目標に取上げ経営規模や季節に左右されない良質  
牛乳の生産を期する必要を痛感する次第である。

オノ四、ミルカー導入酪農家比率



オノ二四、酪農洗剤及び塩素殺菌剤使用状況 40年2月調



オノ三四、PLテストによる成績

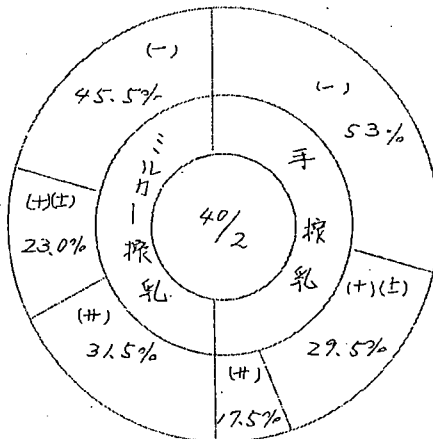
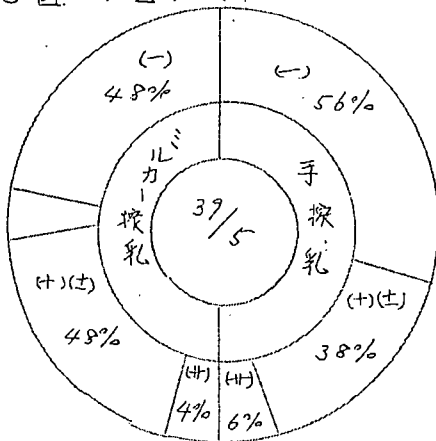
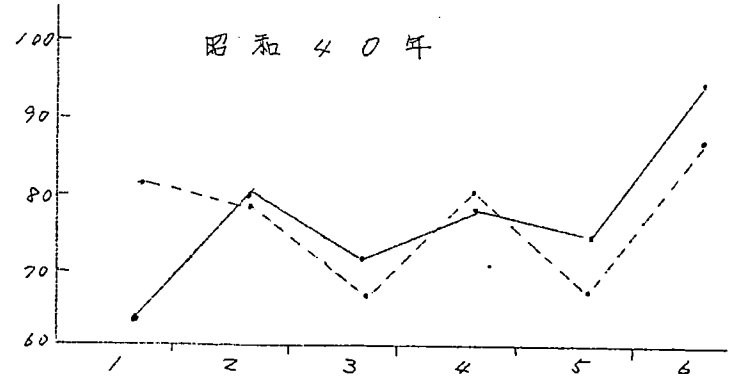
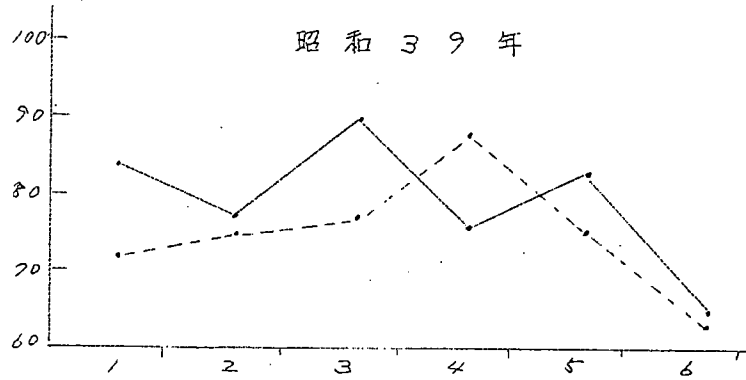
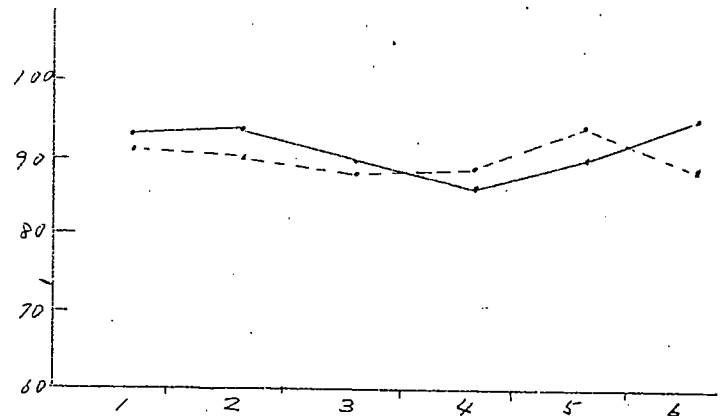
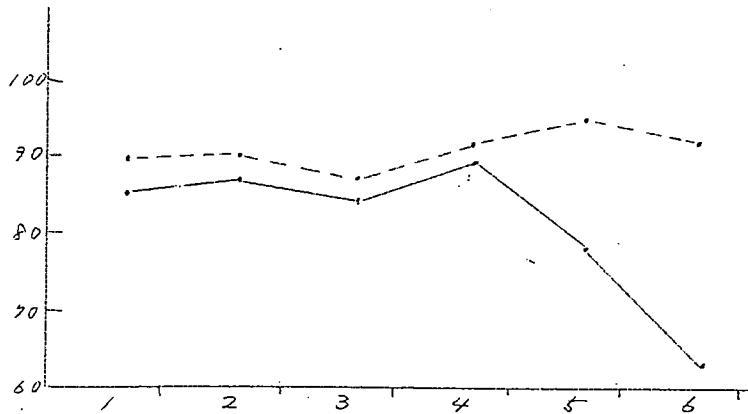


図4 採乳方法別乳質検査成績



—— ミルカ一採乳

- - - 手採乳



セシメントテスト成績

レサズリンテスト成績

